

～清流木曾川に抱かれた

『豊かさ』と『やすらぎ』あふれる創造文化都市実現のために～

令和8年度予算のあらまし

令和8年度は、「さらなる自治体DXの推進」「まちの魅力発掘とPR」「こども施策の充実」「ずっと住みたい安心のまちづくり」に取り組みます。特にDX分野においては、住民サービスの向上をいくつも“形”にして皆さんにお届けするほか、職員の働き方改革も含め、業務の在り方も見直して参ります。

先行き不透明な情勢の中ではありますが、幅広い視点とビジョンを持って、笠松町の独自性やポテンシャルを示し、町民の皆さんが住んでよかったと思える、誇りの持てるまちづくりを推進します。

予算総額

一般会計

91億6,500万円

対前年度比較

6億9,900万円増(+8.26%)

※特別会計、企業会計の予算総額は、町ホームページをご覧ください。



▲令和8年度予算の詳細

主要事業

1.DXで窓口改革!役場の手続きがもっと便利に!



BPRによる窓口改革を推進 1,859万円

役場の窓口レイアウトを大幅リニューアルします。新しい窓口では見やすい案内表示や座って手続きができるカウンターのほか、発券機を導入し、一体的な案内ができるようになるとともに、インターネット上で窓口混雑情報が見られるなど、大きく利便性が向上します。

公金支払い手続きの効率化 1,188万円

町税や水道料金などの納付について、口座振替登録がWeb上でできるようになる「Web口座振替受付サービス」を導入し、スマホやPCからいつでもどこでも手続き可能になります。

また、庁舎に「セルフ公金収納機」を設置し、役場窓口ではセルフレジの感覚で簡単に町税などの支払いを行うことができます。



公共施設予約システムの改修 943万円

体育施設などの公共施設予約システムについて、オンライン決済が可能なものに刷新し、導入後は料金支払いのために窓口へ訪れる必要がなくなります。

また、既に導入済みのスマートロックと連携することで、施設の鍵も窓口でなく現地で受け渡しできるので、施設を利用するときの利便性が大きく向上します。

DXをCIO補佐官の力で強力に推進 1,060万円

町のDX推進を担うCIO(最高情報責任者)を専門的知見から補佐するCIO補佐官を、前年度に引き続き外部から2名登用します。

令和8年度はLINEを活用したオンライン申請窓口をさらに拡大させていくほか、AI分野において町独自の行政手続きなどを学習させた「行政版AIチャットボット」を開発し、24時間お問い合わせ対応が可能なオンライン窓口を開設することで、きめ細かなサービスの提供を実現して参ります。



2.まちの魅力を次々発掘! 住んでよかった、来てよかった笠松町!

ふらっと笠松の拡大整備 3,040万円

名鉄笠松駅構内にある「ふらっと笠松」は、バスの待合や名産品の販売、行政情報の発信を行う施設として展開していますが、隣接する空き店舗を活用し、ギャラリースペースの拡充、コインロッカーやサイネージの設置などを行い、アニメとのコラボ事業などによって増えた海外からのお客様もおもてなしできる、充実した観光拠点として生まれ変わります。



笠松町の魅力を創出し、プロモーション 1,539万円

大好評を博しているアニメーションコラボ事業などをきっかけに、町の認知度が急上昇中。もっと町の魅力を知ってもらい、ファンになってもらうため、令和8年度も新たなコラボ企画の実施や動画コンテンツでのデジタルPR配信などを続々企画中です。

また、映像作品を活用した地域振興やさらなるファンの獲得に向け、ロケツーリズム協議会などでアピールし、町でのロケ誘致を促進します。

3.こどもたちの未来と笑顔を守ります!

学校給食費の負担を軽減 2,097万円(町で負担する額)

物価高騰に伴い、学校給食で使用する食材についても値上がりが生じていますが、食材の値上げ分に対する費用の負担に加え、子どものいる家庭への支援策として国の交付金を活用して保護者負担額を減らし、栄養のバランスや量を保ったおいしい給食を引き続き安価で提供できるよう努めます。



小学校校舎改修工事 8,738万円

快適な学校生活環境の維持と学校施設の長寿命化のため、令和8年度は、老朽化が進んでいる松枝小学校のトイレについて、2年間をかけて、和式の洋式化、湿式から乾式への改修工事を実施します。

また、笠松小学校でも、講堂トイレの一部改修工事や、同校で令和9年度実施予定の屋上等防水工事に向け、設計業務を実施します。

4.これからもずっと住みたい!安心のまちを実現します!



雨水の浸水被害対策を推進 3,446万円

近年の豪雨により冠水した地域の周辺11箇所に土のうステーションを増設します。これにより、集中豪雨のときなど、お住まいの地域でいち早く浸水対策を行うことができるようになります。

また、併せて雨水の浸水リスクの把握と対策強化のため、雨水管理総合計画の策定と、雨水ハザードマップの作成を行います。

次期ごみ処理施設稼働に伴う関連経費 4億3,485万円

岐阜羽島衛生施設組合が整備を進めている次期ごみ処理施設の令和9年4月施設稼働開始に備え、ごみ出しルールの変更点などを反映した新しい「家庭ごみハンドブック」を作成し、全戸配布を実施して皆さんにお届けします。

また、稼働間近となった新施設の建設費などを、組合の構成市町である岐阜市、羽島市、岐南町と笠松町で按分して負担します。

